

JAMCA

ジヤムカ
ニュース

The Japan Automobile Maintenance Colleges Association



No.26

2000年7月1日

発行 協会事務局 全国自動車整備専門学校協会
〒160-0015 東京都新宿区大京町31
ヴィップ新宿御苑 ☎ 03-3356-7066

編集事務局 〒125-0002 東京都葛飾区西亀有3-28-3
☎ 03-3601-2535 FAX 03-3601-2988

整備学校の評価

東京工科専門学校理事長 山本 眞
全国自動車整備専門学校協会理事



自分〈学校〉が当面考えていることを述べてみる。

専門学校の競争相手はどこか

いま専門学校は少子化の中で、その存続が問われている。99年度（カッコ内は98年度）の高校卒業者の32%（30%）が大学、20%（23%）が就職、17%（16%）が専門学校、12%（13%）が短大、残り約19%（18%）は進学でも就職でもない。

この数字の変化を見ると、専門学校は比率で微増、大学の方が増えている。全体のパイが減っているのだから、比率で微増では危ない。このことから、競争相手は専門学校同士よりも大学であり、大学に勝てる存在にならないと、生き残れないと考えられる。

大学は少子化による学生の質的低下と急激な社会変革について行けず、学卒未就職者は32万人に上った。新たな職業教育を望む声大きい。教科書を覚えただけの知識では、仕事はできない。仕事は経験〈実習〉して自信を持って知っているレベルにならないとできない。

また、実際〈全体〉を知らず、まず理屈〈詳細〉を覚える教育は、多くの人を勉強嫌いにしている。ここに問題がある。一方、技能だけとか手順だけ堪能になるのでは、新しい変化についていけない。やはり「何故か」の理解がない者は自己発展できない。結局、専門学校が大学に勝

つには、実習〈具体的・総合的〉から入る教育に、何故そうするか〈一般的・要素的〉を理解する学習を、今よりも強化する必要がある。加えて言えば、専門学校と職業訓練校との差もそこにある。

整備学校は安泰か

しかし専門学校は、分野ごとにかなり違った様相を呈している。看護、美容、調理、鍼灸など、大学にない分野は競争相手がいないから、学生募集も安泰である。整備学校もそれに近いから安心だといえるだろうか。

いま、工業系専門学校の整備科新設が後を絶たない。理由は資格がしっかりしていて、学生募集が良いからだという。学生募集がすべてなのだ。工業系〈第1分野〉なら、どんな業種の専門学校でも、届け出だけで自動車整備科を作ることができる。

このことを考えてみると、資格取得教育は標準カリキュラムが公開されているということは、伝統校も、できたばかりの整備科も、カリキュラムどおりにやれば、同様な合格率

を出すことができることを意味する。その時、学校としての評価はどこに置けば良いのかという問題に突き当たる。

大学より良く分かる授業を

「何故か」の理解という理論、工業系の場合、直ちに数学や物理学の理解を指す人が多い。それも一つではあるが、職種に応じてどこまで原理にさかのぼるか、いろいろな「基礎」があるのではないかと思う。著名な実業家や技術者が必ずしもみんな数学や物理学に強いとは思えない。

このあたりに、学校評価の本質があるのではないだろうか。整備学校の評価は資格合格率順ではなく、卒業生がどんな形で秩序だった知識を貯えているか〈これを基礎能力といって良いと思うが〉、企業がどれほどそれを評価しているかが、究極の学校の評価だと思う。

結論は、大学より良く分かる〈何故かが理解できる〉授業ができるかだ。そのためにどれだけ教材が蓄積されているかだ。少なくとも、できたばかりの整備学校と同じレベルの授業をしている学校は存続できない。

■ CONTENTS ■	
2面	OPINION
3面	北から南から
4・5面	特集・いまなぜソーラーカーか
6面	協会トピックス
7面	活躍卒業生・地区通信
8面	私の教材活用・編集後記